令和元年度

社会福祉法人愛光園

事業報告書

令和元年度　事業報告書

１．総括

昨年は、元号が平成から令和に代わり、人心も新たに地域福祉の向上に取り組む意気込みを実感していた矢先、10 月 12 日夜半に台風 19 号が地域の河川・水路の越水もたらし、稲岡事業所では管理棟及び入所棟で床上約 50ｃｍ、工場棟では約 25ｃｍ、また大久保事業所の一歩で床上約 50ｃｍの浸水が発生し、甚大な被害となりました。年度終了時点においても復旧は完全には終わっていませんが、できる限りのスピード感をもって設備等の修復にあたっています。幸いにもこの時期、一人のけが人・病人等を出さなかったことは、職員の的確な判断と臨機応変な対応の成果と考えております。この経験は新しい防災計画に反映させることとしました。

更に年が明けてからは、新型コロナウイルス感染拡大への対応に追われることとなりました。2 月に入ってからは、開催予定されていた会議やイベント等が相次いで中止となり、その後の「緊急事態宣言」発出に至り、社会活動そのものの自粛が求められるようになりました。しかし、このような中にあっても、「支援が必要な方々の保護の継続」として、高齢者、障害者等の事業の継続は求められ、私たちは、この使命を全うするため、居住系サービス、日中系サービス、相談事業などそれぞれの課題に即した工夫をしながら業務にあたってきました。

他方、事業におきましては、令和元年 7 月から、館林市で開始した三桝屋總本店（就労継続支援Ｂ型）は当法人に移籍した旧会社従業員と力を合わせ、利用者の作業も軌道に乗り始めました。障害者の福祉事業でありながらも、地域の伝統産業としての長い歴史を守りながら、更なる発展の可能性を追求する準備ができました。

また、クリーニングについては、優良取引業者に恵まれ、これまでも順調に推移してきましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2 月、3 月はレジャー・ホテル関係の売り上げは 3 分の 1 以上にまで落ち込み、当法人においても少なからず作業現場は混乱を余儀なくされています。

年度終盤からの新型コロナウイルス感染症への対応は、まだまだ続く緊迫した事態であると認識し、全スタッフは全力でこの緊急事態を乗り越えるための意思統一を図ります。

２．各事業所毎の状況

（1）稲岡事業所

ア、就労系サービス《愛光園（就労継続支援Ｂ型)》・《共働舎（生活介護)》

a 概況

・工場内の美化活動の取り組みとして境界線（床のペイント）を明確にする事で整理整頓なども分かりやすくなるように取り組んでまいりましたが、同年 10 月 12 日に起きた台風 19 号の大雨で、床上浸水の被害があり、ペイントされた床も水没後の清掃をする事で剥がれてしまい、まだらな床になってしまいました。工場外の設備もほとんど水没し復旧が危ぶまれましたが関係者の協力もあり、1 週間で生産活動が行えるようになりました。工場前の敷地の泥がいまだに残っており、強風により工場内に影響がある状況ですが徐々に工場内外の清掃等も整備され奇麗な工場になっております。

・利用者のレク活動は就労関係事業所合同での日帰り旅行を行いました。他事業所と合同で行う事で、行動範囲や内容についても幅のある旅行計画になりました。利用者が選択出来るという事で選ぶ楽しみもあり好評でした。これまでは、事業所により計画出来なかった場所へも行け

るようになり、楽しみも増えたと思います。また、他事業所の利用者との交流が行えたので良かったとの意見もありました。

・館林市に新設の三桝屋事業所（就労Ｂ型）が出来る事になり稲岡事業所で作業している利用者の希望を聞き実習や異動などについての相談等を行い本人の希望に沿った支援を行いました。

・誕生月の利用者で外食に行く企画は今年度も引き続き行いました。月によって行く場所も選べる事から利用者から大変好評でした。

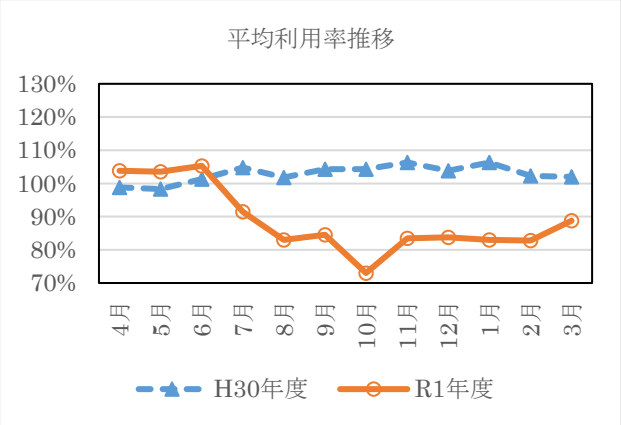
・インフルエンザ等の感染症対策（マスクの着用・手指消毒の徹底・取手等の消毒）を早い時期から行う事で、感染症の症状で休む利用者がほとんど出ることなく支援を続けられました。

b　利用率の推移

≪愛光園（就労継続支援Ｂ型）≫

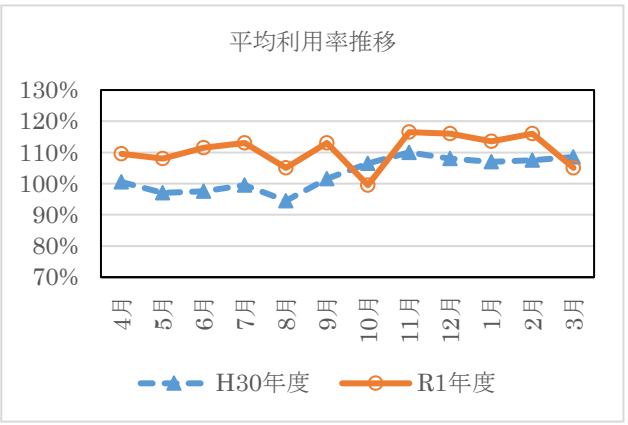
定員	40 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	11,044 名
平均利用者数	35.6 名
平均利用率	89.0%
平均工賃	26,785 円

※以下就労継続支援Ｂ型は平均工賃、
生活介護は平均区分を示しております。



≪共働舎（生活介護）≫

定員	20 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	6,858 名
平均利用者数	22.1 名
平均利用率	110.5%
平均区分	4.1



イ、入所・介護系サービス《陽光園・（施設入所支援+生活介護）》・《愛光園ホーム（福祉ホーム）》《サンリット（通所介護、介護予防通所介護）》

a　概況

・平均障害支援区分が 5.6 と、法人内で最も重度の方が多く利用されている事業所の中で、職員体制 1.7 : 1 と、職員を手厚く配置し、入浴サービスをはじめ、重度の利用者様への身体介助や生活の支援を行いました。

・10 月 12 日に起きた台風 19 号の大雨で、床上浸水の被害があり、一時的に入所者が別の事業所へ避難したり、約 2 週間に渡って通所の受け入れを休止するなど、多くの被害が出ることとなりました。工事に関しては今年度で終了することができず、次年度に繰り越しとなっておりますが、利用者・職員共に健康面への大きな被害はなく、現在は少しずつ元の生活へ戻れるよ

う支援を続けております。

・施設入所支援の中では、職員を 1：1 で配置し、利用者本人が行きたい場所へ外出する「夢の外出」を企画し、利用者に喜んでいただきました。ただし、前述の水害被害により、年度後半に実施する予定だったものは、次年度へ繰り越されることとなっております。

・介護部会と連動し、介護マニュアルを使用して職員の介護技術や資質の向上に努めました。また、職員の資格取得の推進に励み、今年度は 3 名の職員が「介護福祉士」の資格を取得いたしました。

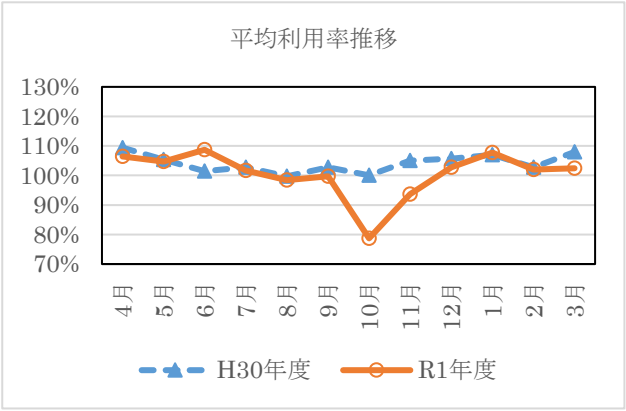
・家族とのコミニケーションと事業所の透明性の確保のため、重身の方において自宅への訪問を 6 ヶ月に 1 度実施し、日中の過ごしている様子や、要望等を聞きニーズの聴取に努めました。

・サンリットにおいては、陽光園の企画に参加するほか、利用者層に応じた独自の行事等を企画実施しました。

b 利用率の推移

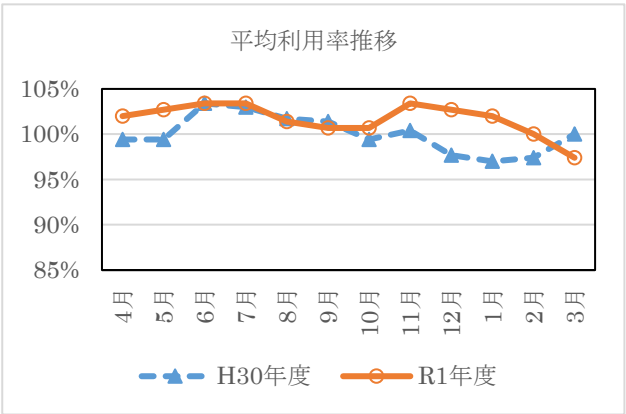
≪陽光園（生活介護）≫

定員	30 名
開所日数	312 日
延べ利用者数	9,383 名
平均利用者数	30.1 名
平均利用率	100.4%
平均区分	5.6



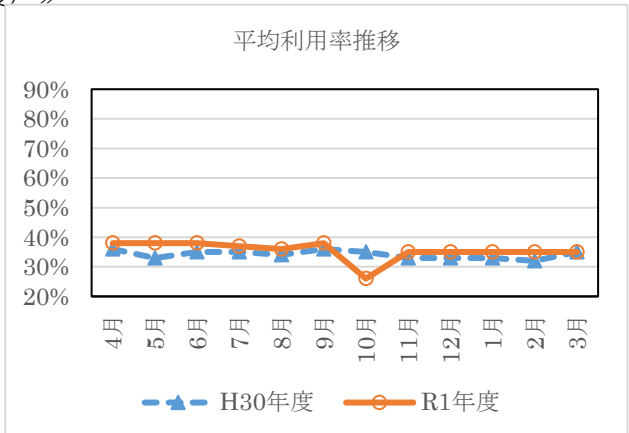
≪陽光園（施設入所）≫

定員	30 名
開所日数	366 日
延べ利用者数	11,144 名
平均利用者数	30.5 名
平均利用率	101.7%



≪サンリット（通所介護、介護予防通所介護）≫

定員	10 名
開所日数	252 日
延べ利用者数	888 名
平均利用者数	3.6 名
平均利用率	36.0%



≪愛光園ホーム（福祉ホーム）≫

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
定員	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60	5
利用者数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	23	1.9

（2）アイタウン《ホームほのか・ホームひだまり（共同生活援助）》

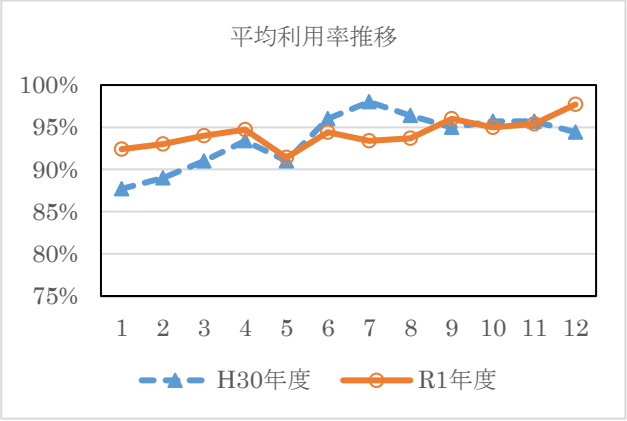
a 概況

・家族、行政、相談支援センター、日中活動事業所と報告、相談、連絡を密に行うことにより、利用者の状態に合わせた支援を行うことが出来ました。
・町内のペタンク大会には、練習から 10 名以上の利用者が参加し、町内の皆さんと一緒に汗を流し、楽しむことで、地域との交流を深めることが出来ました。
・7 月に警察官による交通安全講習会を開催して、自転車乗車時、歩行時の交通ルール・マナーを学びました。
・全職員が虐待防止研修に参加し、虐待防止、支援等のスキルアップに努めました。
・月 1 回の個別買い物支援を実施しました。また、個々のニーズに合わせた外出ができるように家族や関係機関も含めて調整をしました。
・利用者の満足度、季節感を考えて、毎月 1 回レクリエーションを企画しました。
・看護師（日々の医療的ケア等）、栄養士（栄養面談等）と連携し、利用者の健康、体調管理に努めました。
・感染時期にはアルコール・手洗いの推奨等体調管理に務めました。

b 利用率の推移

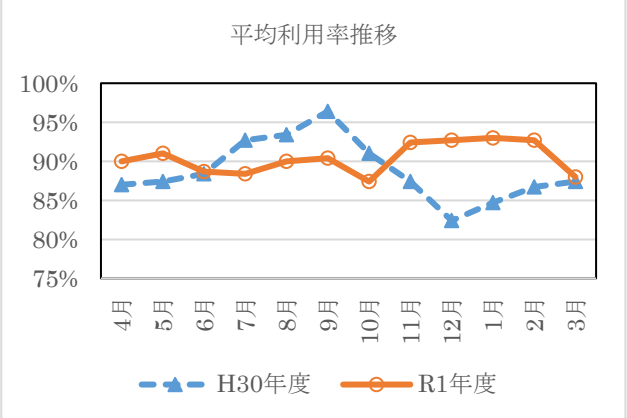
≪ホームほのか（共同生活援助）≫

定員	30 名
開所日数	366 日
延べ利用者数	10,329 名
平均利用者数	28.3 名
平均利用率	94.4%



≪ホームひだまり（共同生活援助）≫

定員	30 名
開所日数	366 日
延べ利用者数	9,902 名
平均利用者数	27.1 名
平均利用率	90.4%



（３）山川事業所

ア、《足利愛光園（生活介護・就労継続支援Ｂ型)》

a 概況

・クリーニング作業は大きな変化もなく安定した作業量が確保できました。洗濯工程も除菌剤を入れての処方に変更し衛生面での品質も向上しました。

・就労継続支援 B 型において、利用者のモニタリングのタイミングで作業評価を行い工賃向上に繋がるように支援を行いました。（作業適性・効率など）

・主要機械の連続式洗濯機・脱水機・乾燥機等の使用年度も 10 年目に入り、部品の交換や整備など日頃のメンテナンスが生産活動に影響する時期でもあり、早めの対策を行う事で大きなトラブルもありませんでした。

・熱中症対策で、洗濯工程担当の利用者様に対してはスポーツドリンクの提供等を行いました。また、全員に暑い時期のアイスクリームの提供を行い大変好評でした。

・誕生月の利用者で外食（予算内で昼食を選択）を行い好評でした。

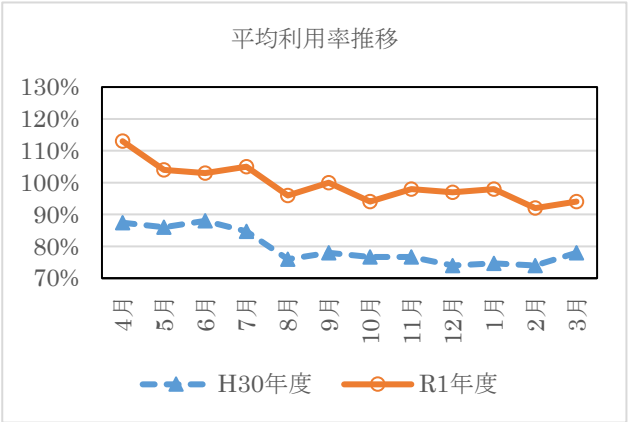
・利用者様のレク活動は就労関係事業所合同での日帰り旅行を行いました。他事業所と合同で行う事で、行動範囲や内容についても幅のある旅行計画になりました。利用者が選択出来るという事で選ぶ楽しみもあり好評でした。これまで事業所により計画出来なかった場所へも行けるようになり、楽しみも増えたと思います。また、他事業所の利用者との交流が行えたので良かったとの意見もありました。

・インフルエンザ等の感染症対策（マスクの着用・手指消毒の徹底・取手等の消毒）を早い時期から行う事で感染症の症状で休む利用者もほとんど出ず支援を続けられました。

b 利用率の推移

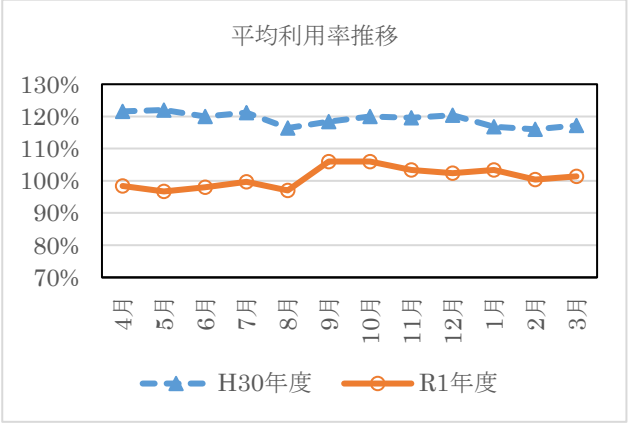
生活介護

定員	10 名
開所日数	312 日
延べ利用者数	3,087 名
平均利用者数	30.1 名
平均利用率	99.0%
平均区分	3.7



就労継続支援Ｂ型

定員	30 名
開所日数	312 日
延べ利用者数	9,445 名
平均利用者数	30.3 名
平均利用率	101.0%
平均工賃	29,092 円



イ、《愛光園ホームあすか（共同生活援助）》

a 概況

・地域の活動に参加する目的で、ふれあいの集いへの希望者を集い、参加を呼び掛け、5 名の方が参加し十分楽しんでいただきました。

・山川（ホームあすか・つばさ：19 人）・猿田（だんけ：9 人）の 2 事業所一体の活動も検討しましたが、移動や人員の関係もあり同じ内容のものを 2 か所に分け行事を行いました。

6 月（手作りカレー夕食会）：利用者様と一緒にカレー作り。

7 月（七夕の集い）：七夕飾りや短冊を利用者と一緒に作り、お菓子を提供。

8 月（DVD 観賞会）（納涼祭）：ゲーム、お弁当提供。

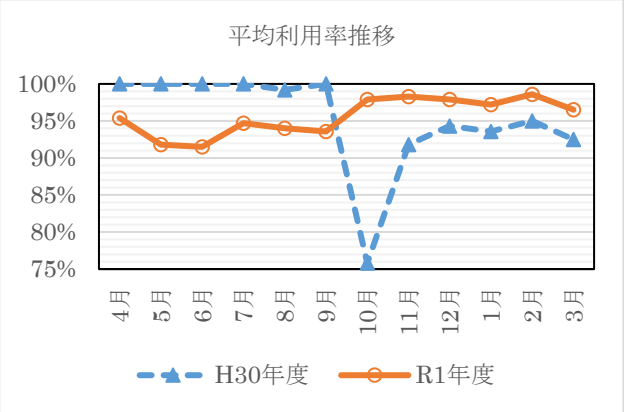
9 月（T シャツ作り）：何日かに分けて個別対応をしながら本人の好きな柄を T シャツに描く作業を行い個性のある柄が出来ました。

12 月（クリスマス会）：すたみな太郎に夕食を兼ねたクリスマス会を行いました。

3 月（花苗作り）：個別に鉢植えを行った。鉢に自分の好きな模様などを描きました。

b 利用率の推移

定員	28 名
開所日数	366 日
延べ利用者数	9,777 名
平均利用者数	26.8 名
平均利用率	95.8%



（4）大久保事業所

《一歩（就労継続支援Ｂ型)》

a　概況

・新商品の開発を実施し、お客様に選んでいただけるような店舗づくりを目指し、内装も変更いたしました。

・外部での販売を積極的に活用し、販売の売り上げの他、地域と利用者とのコミュニティづくりを行いました。

・10 月 12 日に起きた台風 19 号の大雨で床上浸水があり、通所利用を 10 日間休止するなど、大きな被害が出ました。復旧工事は最終的に年内で終了し、現在は通常営業を行っております。

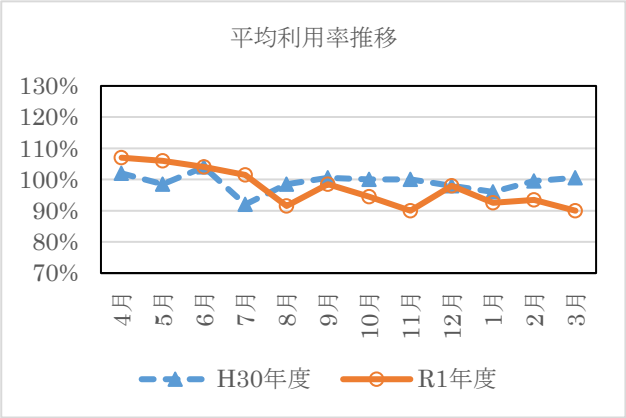
・食品の製造という観点のもと、作業室入室時の手洗いを確実に行い、作業所内外の衛生管理を行いました。

・令和 2 年 4 月より完全施行される、食品表示法に向けて、商品ごとの表示の変更等の取り組みを行いました。

・レクリエーションを定期的に行い、利用者に喜んでいただきました。

b　利用率の推移

定員	20 名
開所日数	264 日
延べ利用者数	5,124 名
平均利用者数	19.5 名
平均利用率	97.5%
平均工賃	11,447 円



（５）あづま事業所

ア、《彩光園（生活介護・Ｂ型)》

a　概況

・作業においては、クリーニングのたたみ作業に加え、ビデオテープの解体作業やペットボトルキャップの仕分け等新しい作業を取り入れて、支援を行っております。また、様々な障害特性に応じた作業提供と、バリアフリーの環境を活かし、安心して作業を行える環境設定を行いました。

・施設外就労では４年目を迎え、新たな人員も確保し、今後の事業拡大も視野に入れながら取り組みました。作業内容も多種に渡り任せていただけるようになり、作業に対して責任感も増し、自覚をもって作業に取り組んでいただきました。

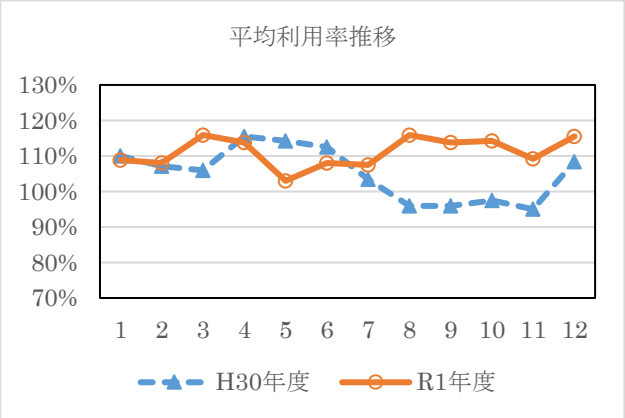
・彩の特徴である「アクティブな活動」を多くのレクリエーションに取り入れ、健康増進、残存機能の維持に取り組むことが出来ました。又、急な発作等の対応にも慌てずに看護師指導の下、実施することが出来ました。

・生活介護の増員に向けて、令和２年４月に生活介護30名、Ｂ型10名への定員変更を予定し、３月にＢ型の方５名が稲岡事業所、３名が三桝屋総本店を希望され、異動されました。

b　利用率の推移

生活介護

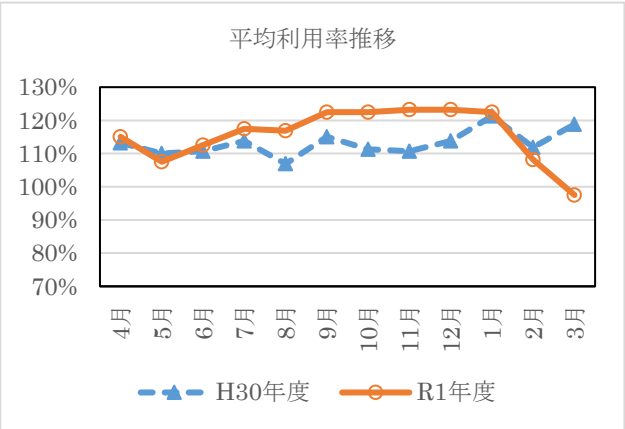
定員	24名
開所日数	312日
延べ利用者数	8,294名
平均利用者数	26.6名
平均利用率	110.9%
平均区分	4.5



就労継続支援Ｂ型

定員	16名
開所日数	312日
延べ利用者数	5,763名
平均利用者数	18.5名
平均利用率	115.4%
平均工賃	25,415円

※延べ利用者数、平均利用者数、平均利用率は施設外就労1,557名/年を除く



イ、《ホームかがやき（共同生活援助）》

a　概況

・かがやき・きらめき共に定員は 10 名、ひばりの定員 6 名を合わせ、合計定員数は 26 名となっております。

・利用者の年齢は 24 歳から 67 歳、障害種別は精神・知的・身体と様々な方々にご利用いただいております。

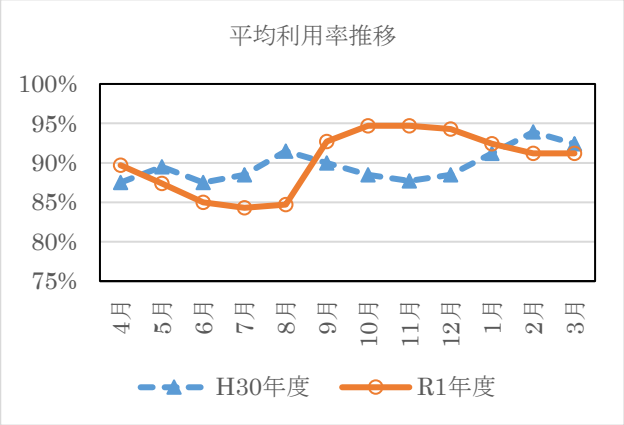
・障害支援区分は、区分無しの方から区分 6 と様々で、区分 6 の方は 3 名いらっしゃいます。棟ごとの平均区分の内訳は、かがやき 4.1、きらめき 4.5、ひばりは 1.8 となり、かがやき、きらめきに関しては平均区分が 4.3 と、障害が重度の方にも多くご利用いただいております。ひばりの平均区分は 1.8 と、比較的軽度の方が利用しております。3 棟の平均区分は 3.7 となります。

・「利用者本位」「利用者主体」を考え、個別支援計画の作成を行いました。また、個々が持つ強みや、ご家族の要望を汲み取り、日々の支援からモニタリングを実施し、変動するニーズに合った支援を実践しました。

・地元の上羽田町八幡宮の祭りや、地区の納涼会に参加するなど、地域の一員としての関わりを行いました。また、地域の店舗で買い物や食事を楽しみ、日々の生活に潤いを提供しました。

b　利用率の推移

定員	26 名
開所日数	366 日
延べ利用者数	8,562 名
平均利用者数	23.5 名
平均利用率	90.4%



ウ、《なないろ（放課後等デイサービス・児童発達支援）》

a　概況

〇放課後等デイサービス

・今年度末は新型コロナウィルスの感染拡大に伴う各学校の休校に対応し、長期休みと同様の支援体制をいち早く整え、利用児の安全・安心の居場所作りに努めています。

・小・中学校への進学の利用児にあっては、モニタリングで新しい「個別支援計画」を保護者に了解いただき、スムーズに療育の質の向上が行われています。

・十分な広さのある『にじ棟』は、主に中学・高校生が利用しても心と体を健やか保つ療育や作業を展開できますので、とても穏やかに生活できています。

・支援会議は毎月第 1 水曜日に児童発達支援『きらら』と合同で行い、放課後等デイサービス事業に関わる職員のスキルを高く保っています。

・なないろだより『れいんぼう』は各関係機関からの原稿をいただき、行事予定・利用児の様子等をご家族や在籍校へ毎月お知らせしています。また、保護者との連携は密に行うよう努め、

常時相談に対応しております。

○児童発達支援

・土曜日のご利用に向けて、仕事をしてらっしゃる保護者の方々から随時見学そしてご利用希望の申し込みがありました。

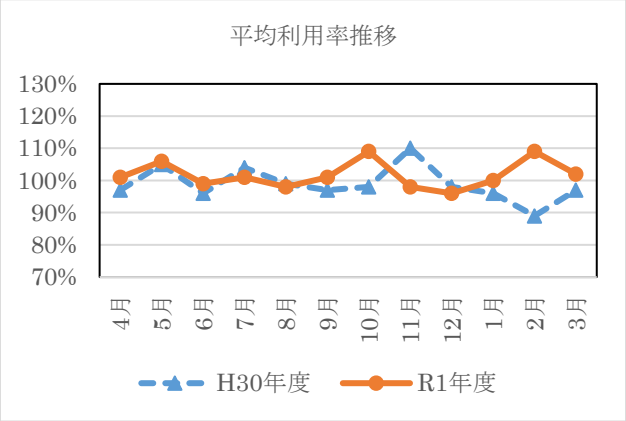
・利用児の「個別支援計画」は年令と特性を考慮し、『遊び』『ADL』『療育』の目標で設定しモニタリングは年２回実施しています。但し、利用児は成長著しい段階ですので、児童発達管理責任者は随時ご家族と相談の機会を持てるよう努めています。

・児童発達支援は、個別支援中心で充実した療育を提供し家族の皆様からご満足いただいています。また、担当の支援員はその日の活動の様子や体調、療育の成果を伝え、ご家族からも利用児が褒めていただけるよう連携しています。

b　利用率の推移

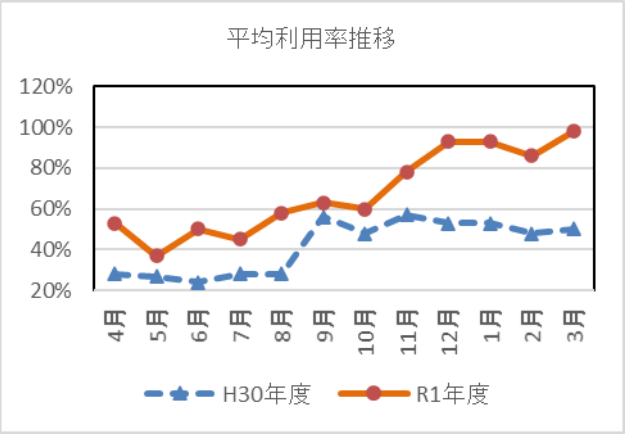
放課後等デイサービス

定員	10 名
開所日数	290 日
延べ利用者数	2,935 名
平均利用者数	10.2 名
平均利用率	102.0%



児童発達支援

定員	10 名
開所日数	50 日
延べ利用者数	340 名
平均利用者数	6.8 名
平均利用率	68.0%



（6）六郷事業所

ア、《ラクーン（生活介護)》

a 概況

・作業プログラムを、1F でのリハビリ的軽作業とゆたか工房でのパソコンを中心としたリサイクル作業とに分け、選択肢を増やし利用者の皆様の自己意思決定を意識しサービスを提供しました。

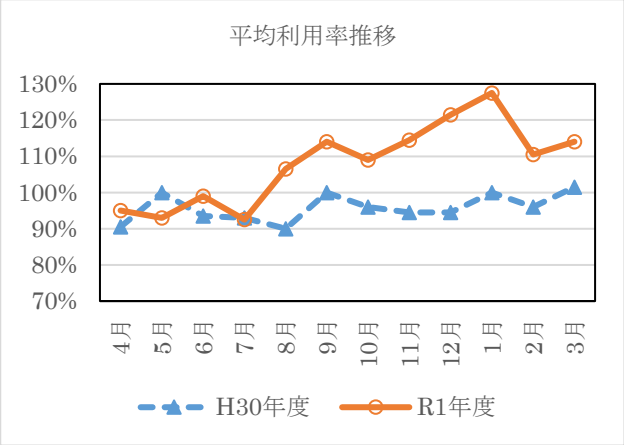
・地域のボランティアを毎月 2 回招致し、利用者に季節・地域文化・伝統芸能等を感じてもらうと共に、お礼として三桝屋總本店と一歩のお菓子を提供し、愛光園　ラクーンとして地域交流・貢献をすることができました。

・各グループホームやご家族とこまめに連携を取り、情報の共有に努めました。

・法人内の介護部会での知識・技術の習得や、情報共有・再発防止等において、個人・組織としてのスキルアップに努めました。また、些細なことでもヒヤリハットを記載するように心がけ検証を行い、事故防止に努めました（ヒヤリハット 52 件/年)。

b 利用率の推移

定員	20 名
開所日数	312 日
延べ利用者数	6,717 名
平均利用者数	21.6 名
平均利用率	108.0%
平均区分	4.3



イ、《セレッソ館（共同生活援助)》

a 概況

・エアコンフィルターの週 1 回清掃や、利用者の方と共働の居室の清掃、各脱衣所の物置棚の設置等、衛生面において安心安全な住環境の提供に努めました。

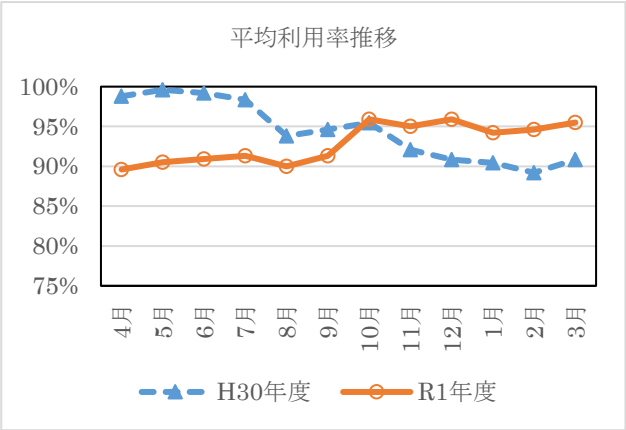
・セカンドオピニオン制度を活用し慢性疾患への対応に挑戦しました。

・利用者の市写真展への応募、地域（1 市 5 町）の障がい者作品展への出品等援助とスタッフによる歌の披露や前職（割烹料理店経営）を活かした本格鮪漬丼提供等、利用者・スタッフともに“個性の創出”に努め、“みんなで一緒にいい施設を！”の意識向上に努めました。

・「愛光園」の緑のビブスを着用し、定期的に近隣街道のゴミ拾い（クリーン大作戦）を行い、地域貢献に努めました。

b 利用率の推移

定員	24 名
開所日数	366 日
延べ利用者数	8,145 名
平均利用者数	22.3 名
平均利用率	93.0%



ウ、《三桝屋總本店（就労継続支援 B 型）》

a 概況

・令和元年 7 月に、定員 20 名の就労継続支援 B 型として、新規にオープンしました。

・社会福祉法人として障害福祉サービスを展開する「愛光園」と、350 年を超える、老舗の菓子製造・販売を営む「三桝屋總本店」とのコラボレーション、県内初で全国でも数少ない“伝福連携”の事業となりました。

・老朽化した建物・設備を改修し、利用者が安心安全に利用できる環境を整え、開所前に、利用希望の方に見学会、地域の行政・相談支援事業者・特別支援学校・同業他法人等の皆様に内覧会を行い、周知いたしました。

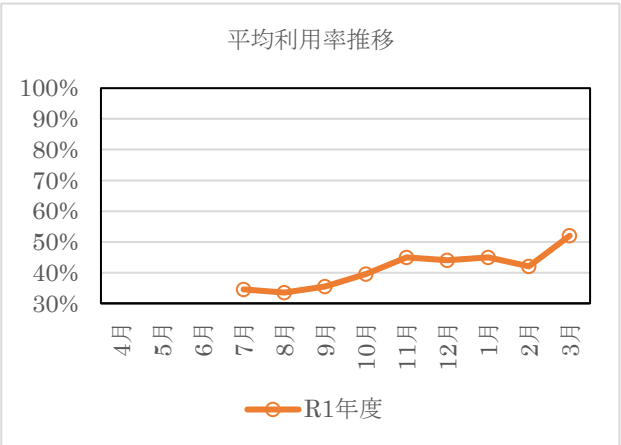
・法人内の利用者様へ事業所開所の告知を行い、興味がある方の実習を行った上で、ニーズに合わせて事業所の異動を行いました。

・利用者・愛光園職員・旧三桝屋の従業員の三位一体で、麦落雁とサブレを中心に、品質と売り上げの維持向上に努めました。また、地域の文化と伝統であるお菓子作りの次代の担い手が、障がいのある方となれるよう、支援を継続して起こっております。

・台風での被災はありませんでしたが、年度終盤にコロナウィルスの影響で集客・売上が激減し次年度への課題となりました。

b 利用率の推移

定員	20 名
開所日数	208 日
延べ利用者数	1,718 名
平均利用者数	8.3 名
平均利用率	41.5%
平均工賃	30,050 円



（7）猿田事業所

ア、《フルーエ（生活介護)》

a 概況

・フルーエの取り組みとしては入浴日と活動日を分けて取り組む事で、利用者との関わる時間が確保出来、継続した活動の取り組みを行うことができました。活動日（火・木）は音楽療法や創作活動など、集団で行える活動を中心に利用者間やスタッフとのコミュニケーション支援の時間を作り、楽しく参加出来る内容を提供しました。

・土曜日の開所は行なっておりませんでしたが、2 月より、月によっては土曜日の開所も行う様になりました。

・外食の機会が少ない利用者の方も多い事から、昼食（実費負担）の時に出前やお弁当など、普段食べられない物を購入し提供しました。

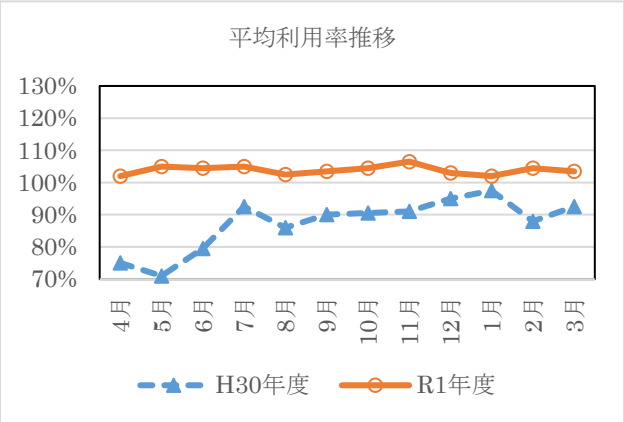
・月に 1 回程度外出の機会を作り活動しました。（冬期は感染症対策で自粛）

・浴室改修工事（大型浴槽から個別浴槽 2 基へ変更）を行い、衛生面や安全面に配慮した浴槽へ変更しました。

・生産活動として内職を希望する利用者も多くなり、活動を調整しながらの提供を行いました。（おかずカップ詰め・エバーパッキン）

b 利用率の推移

定員	20 名
開所日数	262 日
延べ利用者数	5,433 名
平均利用者数	20.8 名
平均利用率	104.0%
平均区分	4.8



（8）愛光園障害者相談支援センター共生

指定特定相談支援事業所の名称	愛光園障害者相談支援センター共生		
主な対象市町名	栃木県足利市、佐野市、群馬県館林市		
職員配置の状況	氏　　名	職種等	資格等
		相談支援専門員	社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員
		相談支援専門員	社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員

業務項目	業務の実施方針等	回数、件数、開催時期等
① サービス等利用計画およびモニタリングの実施	○利用者がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるような計画を作成しました。 ○利用者の意思及び人格を尊重して、利用者の立場に立ち計画の作成を行いました。	随時 成人　165 件 児童　 26 件
	○利用者の希望や目標の達成状況などを含めて、モニタリングを実施し、生活の向上を目指す支援を行いました。	・モニタリング時期 ・状況の変化に応じて 成人　322 件 児童　 0 件
② 関係機関との連携	利用者の望む生活が実現できるよう、市町、障害福祉サービス事業者等との連携を図りました。	随時

（9）足利市障がい者基幹相談支援センター

障害者相談支援事業　実績報告書（令和元年度）								
障害者相談支援センターの名称等	足利市障がい者基幹相談支援センター							
対象市町村名	足利市							
職員配置の状況	氏名		職種等		資格等			
			センター長		放射線技師			
			相談支援専門員		社会福祉士、主任相談支援専門員、社会福祉主事、障害者上級ケアマネ研修修了、介護支援専門員			
			相談支援専門員		社会福祉主事、手話通訳者、セルプ士、障害者上級ケアマネ研修修了、全リハ協アドバンスコース修了、高校2級社会科教員免許			
			相談支援専門員		精神保健福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、社会福祉主事			
			相談支援専門員		介護福祉士、社会福祉主事			
相談実績	相談実人数		544人					
相談形態（延べ件数）	電話・メール	来所	訪問	同行	関係機関	支援会議	その他	計
	2，021件	431件	693件	245 件	755件	60 件	146件	4，351件

処理（対応）実績（延べ件数）	
情報の提供	2，968 件
サービス利用の助言	452件
サービス利用の申請援助	370件
生活プラン作成援助	8 件
他機関紹介	48件
その他	1，222件
合計	5，068件

※相談形態と処理（対応）実績の件数については、1件の相談で複数の処理（対応）をする場合もあるため、件数は一致しません。

○　相談事例（福祉サービスにつなげた主な事例）

○身体障害者
進行性筋ジストロフィーで身体障害者手帳１級の１０代の男性。自宅内では車椅子は使わず、母の介助（抱っこ等）で生活してきたが、体も大きくなってきたこともあり、自宅内でもベッドと車椅子の生活にしたいとの希望あり。住宅改修で出入り口の段差を解消し、ベッド、移動用リフトの設導入により、母の移乗の負担が軽減された。
その後、母の腰痛が悪化し、介助の中でも負担の大きい入浴の支援を希望したいという相談があり、計画相談支援事業所に依頼し、週2回ヘルパーの利用となった。そのことで母親の負担軽減が図れ、本人もヘルパーの介助にも慣れ、会話を楽しみながら入浴ができている。

○知的障害者
安足健康福祉センターからの紹介、 母と祖母で安足健康福祉センターに来所、中学から不登校になり、高校は私立高校に入学したが1年途中から不登校になり退学、その後、通信教育で高卒資格は取り、パソコン関係の専門学校に入学したが、ついて行けず、提出物も守れず単位が取れないため退学。
自宅では自由に過ごしているが、知的な遅れを感じ、心理テストを受けてもらったところ,IQ48～56の間程度とのことで、手帳申請や今後の就労支援を進めて欲しいとの事で本院・家族と面接し支援開始、手帳申請及び判定同行、B1の手帳交付となった。 その後、年金申請の支援、施設利用を考え、見学を行い、B型事業所利用につなげた。

○精神障害者
就業・生活支援センターから紹介。本人は30代男性。大学卒業後に就職するが、体調不良に陥り、1年半休職した後退職。休職期間中、医療機関にかかり、社会不安障害、身体表現性障害との診断を受けている。以降、地元に戻りいくつかの企業に勤めるが、続かず。仕事に就いていない期間が10年以上続いていた。仕事をしていない期間が長いので、まずは体を慣らすところから始めていき、就職に向けて少しずつ進めていきたいとのことで、就労支援のサービスについて紹介。
本人と相談し、就労継続支援B型の利用からはじめていくこととなった。いくつかのB型事業所を見学し、そのうちの1か所の事業所で体験利用を行った。体験利用は問題なく行えて、本人からも今後も利用したいとの意向がきかれたため、計画相談支援事業所に繋いだ。現在週5日休むことなく順調に通えている。

社会資源創出等に関する企画・提言（企画・提言の有無、内容、提言結果等を記載）

足利市地域自立支援協議会の各専門部会において、地域課題の協議を行った。

〇地域支援部会1G(精神疾患のある方の地域課題の協議)
・「ひきこもり」、「親亡き後の支援」、「相談できずに埋もれてしまっているケースへの対応」の現状について情報共有をした。
・その上で、取り組み内容を検討し、事例検討を含め、地域包括支援センターと精神障害者支援機関との情報交換会を企画。
・令和元年１０月１１日に精神障害者機関同士の情報交換会を実施。部会員と市内の精神科病院のソーシャルワーカーが参加。それぞれの役割を再認識し、「精神科の受診に繋がっていない人を受診につなげるために」をテーマに情報交換を行った。
・令和元年１１月１５日に部会と元気高齢課共催の「地域包括支援センターと精神科医療機関の情報交換会」開催。高齢者機関、精神障害者支援機関側からそれぞれ１事例ずつ出して検討。地域包括支援センターの役割および連携について再認識し、連携の促進が図れた。
・「引きこもり」、「８０５０問題」、「障害サービスから介護保険サービスへの移行」といった課題については今後協議し、高齢者機関との連携は、現在の情報交換会を発展させた形で継続していく予定。

〇地域支援部会2G(知的・身体の障がいのある方の地域課題の協議)
・障がい児者とその家族、関係者向けの「市内障がい者施設等の地図」の内容についての協議をした。
・安心キットの記載内容に障害手帳の有無の記載することについての提案し受理された。
・お陽さまカフェの周知に対しての意見交換を行い、部会としてパンフレットを作成した。

〇就労支援部会（就労に関する課題の協議）
・就労系ガイドブックの作成および発行(令和元年7月）
・就労経験がない方が就労継続支援B型を利用する場合において、就労移行支援事業所による「就労アセスメント」が必要となる。現在の足利市では、就労継続支援B型の利用が決まってから就労アセスメントを就労継続支援B型で実施している状況であり、中立・公平な立場でのアセスメントが実施できていないという課題があった。そのため、特別支援学校2年次の夏休みにアセスメントを行い、それを受けて将来の進路を決めるために活用してもらうため、どのように支援が必要か協議した。
・新規就労訓練施設の視察について企画し次年度実施。
・就労系ガイドブックは毎年情報を取りまとめ、７月に発行（足利市障がい者基幹相談支援センターのHPに掲載）。

〇児童支援部会(児童に関する課題の協議)
・医療的ケアの必要な支援についての意見交換し、現状と課題について共有を図った。
・医療的ケアに関わる関係者に構成員が加わり、次年度にかけて医療的ケアの必要な児童の課題に対して、具体的な取り組みを協議していく。

ピアカウンセリング

相談回数：１回　視覚障がいのある相談者に、障害者相談員（視覚障害）を紹介し、面接に同席し、白杖の選び方や生活の仕方などについての助言を受けた。同じ視覚の障がいがある方の話を聴けたということで、将来の不安が和らいだとの意見あり。

地域の相談支援体制の強化の取り組み

〇市内の相談支援事業者に対する専門的な指導、助言
対応困難なケースについて、その対応について検討し関係機関を招集してケア会議を開くなどして指導、助言を行った。

〇市内の相談支援事業者の人材育成の支援および地域の相談機関との連携強化の取り組み
安足地区障害者相談支援事業者等連絡会において、佐野市の障がい者基幹相談支援センター（みどり、さの）、障害者相談支援協働コーディネーターと協力し、相談支援事業者等を対象とした研修会を開き、人材の育成に努めた。

【研修内容】
第1回（令和元年5月16日）「サービス等利用計画の作り方」講義・事例紹介　28名参加
参考事例（グループホームに住み就労継続支援B型施設に通う方）のサービス等利用計画を作成し、作成の方法やポイントを振り返り再確認することで、計画作成のブラッシュアップが図れた。

第2回(令和元年7月18日)「平成30年度総合支援法改正後の相談支援の現状および課題を確認し体制を整えよう～相談支援の加算等に関する説明および質疑応答～」 24名参加

第3回（令和元年9月19日)視察研修「独立行政法人　国立重度知的障害者総合施設のぞみの園　27名参加

第4回（令和元年11月21日)1．医療の重複・頻回受診者および重複服薬者の現状と対応。2．困難事例の検討（野中式事例検討）～改めてアセスメントの取り方を学ぶ～　26名参加

第5回（令和2年1月23日）「総合事業および障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行について」 48名参加

〇市役所窓口による相談業務　　３３件
市・障がい福祉課に相談支援相談支援員が出向き相談対応を行った。相談内容により、市の関係部署の担当者と一緒に面接し相談に対応した。障がいによっては、他の相談支援専門員に引継ぎ対応し、生活に困窮している障がい者などについては、生活保護担当と連携を図って対応した。

総合的・専門的な相談支援の実施について
○身体、知的、精神、発達、高次脳、難病等、障がいの種別も多岐に渡り、重複している方からの相談も寄せられた。 また、障がいの疑いがあり、障害手帳や自立支援医療の手続きの相談も一定数あった。 それぞれ、インテーク面接を経てアセスメントを行い、ニーズを明らかにしつつ、関係する機関・団体等と連携して相談を進めた。 就労に関する相談については、より専門的な対応を行う、両毛圏域障害者就業・生活支援センターなどに連携し対応した。 また、精神疾患のある方については、安足健康福祉センターや精神科病院等との連携して対応した。 ○足利中央特別支援学校および足利特別支援学校、南那須特別支援学校の進路相談会に市の担当と出席し、本人、親と担任、進路指導主事と卒業後の進路について検討を行った。
その他（関係機関との連携状況等を記載）
○足利市健康福祉部生活保護係が主催する「生活困窮者自立相談支援事業支援調整会議」に出席し、障がい者の対象者に対しての意見や対応に関しての検討を行い、連携を図った。 ○地域包括支援センター、民生委員との連携を図るために、地域包括支援センター主催の「高齢者連携支援協力会議」に出席し、包括支援センターの職員、ケアマネージャー、民生委員・児童委員等と事例を通して支援や連携の確認および検討を行った。 ○市の若年性認知症の支援の取り組みに参画し、関係者および市民対象の研修会を行い、多くの方に若年性認知症の理解を促すきっかけとした。 ○安足地区精神障害者支援ネットワーク会議の地域移行・地域定着委員会と啓発委員会および地域交流委員会に所属し、会議や研修会、レクリエーション大会を通して連携を図るとともに、交流委員会では、当事者同士の交流の促進を図った。 ○地域生活支援拠点整備事業（あっしーネット事業）については、緊急一時短期入所事業を開始となった。2件の相談があったが、いずれも障害福祉サービスの短期入所において対応できたため、事業を利用することはなかった。 令和2年3月31日現在の登録者数は１１５名である。今後、自立支援協議会において、体験入所事業実施については、当事者にアンケートを実施し、必要性が認められたため、令和2年度より体制を整備して実施していくことになった。

３． 部会報告

（1）就労部会

クリーニング事業を中心に法人内の就労支援事業について、専門性を高めることを目的としております。また、各種委員会を組織し、実行しております。

日付	区分	内容等	人数
H31.4.26	生産委員会	新規作業及び進捗状況について 各事業所の生産状況報告 三桝屋開所に伴う就労部会の関わり	9
R1.7.26	研修	就労の支援について 不適切な対応について考える（グループワーク） 主催：一歩	22
R1.9.30	研修	クリーニング以外の作業体験・作業に向いている利用者（障害特性など含む）・作業支援のポイントなど 主催：彩光園	22
R2.1.29	研修	研修報告 レクリエーション委員会報告 他事業所への研修について 新規職員紹介など	23

その他レクリエーション委員会を今年度 7 回実施。

（2）介護部会

職員一人一人が介護のプロとして自覚を持ち、専門的な介護が行えるようにしていくことと合わせて、将来のリーダーの育成を目的としています。事業所で研修を持ち回りで行い、各事業所の課題等の問題意識を職員で共有しています。

日付	区分	内容等	人数
H31.4.25	運営会議	平成 30 年度の介護部会の振り返り。 平成 31 年度介護部会形態について。	8
R1.5.24	運営会議	第 13 回介護部会介護部会について。 介護部会研修会は主催が事業所となって年４回実施。 運営委員会には研修会主要メンバーが前後に参入する。	8
R1.6.18	研修	第 13 回介護部会：ヒヤリハットの重要性 ・リスクマネジメントゲーム。 ・問題ケースのケース検討会。 主催：ラクーン	30
R1.7.26	運営会議	第 13 回介護部会の感想会。 陽光園の人材不足に対する補助について。	9
R1.8.27	運営会議	第 14 回介護部会について。 「夏祭り」情報交換会。	8

R1.9.16	研修	第 14 回介護部会：着脱、洗髪、洗身について ・着脱、洗身について、講義にて説明。 ・洗髪、決まった時間内での実技。 主催：陽光園	29
R1.12.10	運営会議	・第 14 回介護部会の反省会。 ・水害被害に伴う被害報告など。	8
R2.1.27	運営会議	・職員の育成について。 ・看護師について等。	8
R2.2.18	運営会議	・第 15 回介護部会について。 ・来年度の介護部会運営委員会について。	9

（3）居住部会

サビ管委員会、レク委員会、生活向上委員会の 3 部構成とし、住まいの場として、利用者の生活を支える支援と、それに対する事業計画を考えることができる職員の育成を行っています。

日付	区分	内容	人数
R1.5.3	サビ管 委員会	立替金について	8
R1.6.25	サビ管 委員会	立替金について 各委員会について 衣服プロジェクトについてなど	7
R1.8.6	サビ管 委員会	苦情・クレーム対応について 立替金について	7
R1.9.4	レク 委員会	実施レクリエーションの報告、満足度の確認	7
R1.10.10	生活向上 委員会	各事業所利用者に対して、生活の質（QOL）について、どのような対応しているのか。 意思決定支援の説明。	6
R2.2.11	レク 委員会	実施レクリエーションの報告、満足度の確認	7
R2.2.14	サビ管 委員会	栃木県指導監査について 個別ケース検討 今後の GH のあり方	5
R2.3.17	サビ管 委員会	中央病院同意書、緊急連絡先について コロナウイルス対応について	7

（4）地域支援部会

社会福祉士、精神保健福祉士、相談支援専門員の有資格者及び相談支援を希望する者を対象とし、相談支援を担える人材の育成を目的としています。

日付	区分	内容	人数
R1.8.6	運営会議	第1回愛光園地域支援部会　コアメンバー会議 ・愛光園地域支援部会の構成員の確認 ・部会日程および内容の確認	8
R1.8.29	研修	第1回愛光園地域支援部会 講義「相談支援の基本姿勢」	14
R1.9.10	運営会議	第2回愛光園地域支援部会　コアメンバー会議 ・第1回愛光園地域支援部会の実績報告、振り返り ・第2回愛光園地域支援部会（10/24）の内容検討 ・相談支援実習の日程、実習者の順番、内容	8
R1.12.5	研修	第2回愛光園地域支援部会（10/24を延期して開催） 「面接場面（インテーク）を学ぶ」 ・相談支援の基本の振り返り ・実際の事例を基にインテーク面接のロールプレイ ・まとめ	10
R2.1.14	運営会議	第3回愛光園地域支援部会　コアメンバー会議 ・第2回愛光園地域支援部会の報告および12月相談支援実習結果報告 ・第3回愛光園地域支援部会（2/20）の内容の検討	7
R2.1.15～16	実習	愛光園足利障害者相談支援センター（足利市障がい者基幹相談支援センター）および愛光園障害者相談支援センター共生の現場実習	1
R2.2.20	研修	第3回愛光園地域支援部会 「面接場面（アセスメント）を学ぶ」 ・相談の基本について（インテークの振り返り、必要な姿勢） ・アセスメントのポイント ・アセスメント面接のモデルロールプレイ観察 ・アセスメント面接のロールプレイ ・本人役、相談員役の感想発表 ・まとめ	12
R2.3.10	研修	第4回愛光園地域支援部会 「今年度の振り返り」（グループワーク） ・相談支援の基本姿勢 ・インテーク ・アセスメント ・相談支援実習	12

※その他5名の職員が、足利市障がい者基幹相談支援センターおよび愛光園障害者相談支援センター共生の現場実習を実施。

４．評議員会の開催状況

	日程	内容
1	R1.6.21	役員の選任について 平成 30 年度事業報告 平成 30 年度決算報告 定款の変更について
2	R1.12.20	台風 19 号の被災の状況について 理事長の職務執行状況について 昇降機の整備について 規程等の改正について 令和元年度第三次補正予算について 洗濯設備の更新について 補助事業の活用について
3	R1.3.31	令和元年台風 19 号による被災及び復旧状況 理事長の職務執行状況について 令和元年度補正予算について 令和 2 年度事業計画について 令和 2 年度予算について 管理者の選任について 顧問契約の締結について

５．理事会の開催状況

	日程	議案内容
1	R1.6.5	理事長の職務執行状況について 平成 30 年度事業報告 平成 30 年度決算報告 令和元年度第一次補正予算について 借入の実施について 定款の変更について 役員の選定について 令和元年度定時評議員会の開催について 管理者の人事について 規程等の改正について
2	R2.6.21	理事長の選任について 事業譲渡契約の締結について
3	R2.9.20	専決処分の報告について 借入の実施について 汚泥脱水機の更新について 管理者の選任について

		経理規程の改正について 令和元年度補正予算について 令和 2 年度の大規模設備整備予定について
4	R1.12.20	台風 19 号の被災の状況について 理事長の職務執行状況について 昇降機の整備について 規程等の改正について 令和元年度第三次補正予算について 洗濯設備の更新について 補助事業の活用について
5	R1.12.26	社会福祉法人つつじ会の事業譲渡について
6	R2.3.31	令和元年台風 19 号による被災及び復旧状況 理事長の職務執行状況について 令和元年度補正予算について 令和 2 年度事業計画について 令和 2 年度予算について 管理者の選任について 顧問契約の締結について

６．職員の研修等実施状況

23 ページ　～　25 ページ資料による。

７．事業別職員数

26 ページ資料による。

８．補助事業の活用状況

27 ページ資料による。

以上

令和元年度　外部研修等実施状況

※「所属欄」:複数事業に配置されている職員は、配置割合の多い事業所の所属としています。

※本表は職員の資質・技術の向上を目的とする又はその効果を見込む外部の研修等を掲載しています。

		研修名（内容等）	主催者等	参加者	所属
1	31.4.19	社会福祉法人制度改革事務担当者フォローアップセミナー	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 全国社会福祉施設経営者協議会		共働舎
2	1.5.19	医療的ケア教員講習会	有限会社ホットラインワールド		彩光園
3	1.5.31	市町審査委員及び障害支援区分認定調査員研修	栃木県		ホームかがやき
					共生
4	1.6.19	障がい者グループホーム新規立ち上げ勉強会	とちぎ福祉推進センター		愛光園
5	1.6.20	第 1 回保健部会　結核予防講演会	公益社団法人群馬県知的障害者福祉協会		ラクーン
6	1.7.2・3	栃木県サービス管理責任者等研修受講資格取得研修	NPO 法人栃木県障害施設・事業協会		なないろ
					ホームかがやき
					共働舎
					陽光園
7	1.7.3	第 9 回常陽ビレッジ会員限定特別講演会	株式会社常陽産業研究所		愛光園
8	1.7.3～5	全国セルプ総合研究大会	全国社会就労センター協議会		陽光園
9	1.7.5	作業支援部会	公益社団法人群馬県知的障害者福祉協会		ラクーン
10	1.7.11	給食部会	公益社団法人群馬県知的障害者福祉協会		ラクーン
11	1.7.17	発達支援指導者研修会第 1 回	安足健康福祉センター		なないろ
					〃
					〃
					〃
12	1.7.22～23	全国知的障害関係施設長等会議	公益財団法人日本知的障害者福祉協会		彩光園
					〃
13	1.8.2	社会福祉法人の統廃合について ～今後を見据えて～	一般社団法人全国福祉法人協会		愛光園
14	1.8.6		NPO 法人栃木県障害施設・事業協会		ホームかがやき

		栃木県サービス管理責任者児童発達支援管理責任者基礎研修①			共働舎
					ななないろ
					陽光園
15	1.8.8	特別支援教育研修会	足利中央特別支援学校 足利特別支援学校		愛光園
16	1.8.17	研修会　親亡き後を考える	前橋市てをつなぐ育成会他		愛光園
17	1.8.19～20	栃木県サービス管理責任者児童発達支援管理責任者基礎研修②	NPO 法人栃木県障害施設・事業協会		ホームかがやき
18	1.8.29～30	全国グループホーム等研修会 in 千葉	公益財団法人日本知的障害者福祉協会		ホームかがやき
19	1.9.4	事業継承セミナー	株式会社日本 M&A センター		愛光園
20	1.9.12	プレミアム講演会	株式会社あしぎん総合研究所		愛光園
21	1.9.14	講演会「ひきこもりの現状を踏まえた心理的支援」	栃木県子ども若者ひきこもり総合相談センター　ポラリスとちぎ		彩光園
22	1.9.18	安全運転管理者等講習	公益社団法人群馬県安全運転管理協会		ラクーン
23	1.9.19～20	サービス管理責任者児童発達支援管理責任者基礎研修②	NPO 法人栃木県障害施設・事業協会		共働舎
24	1.9.19	第 3 回安足地区障害者相談支援事業者等連絡会　のぞみの園視察	第 4 回安足地区障害者相談支援事業者等連絡会		基幹相談支援センター
25	1.9.24	労使トラブル対策伝授セミナー	あいおいニッセイ同和損保㈱栃木支店		愛光園
26	1.9.27	障害者福祉施設支援員研修会	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 福祉人材研修センター		彩光園
27	1.10.10	安全運転管理者等法定講習	栃木県公安委員会		ホームかがやき
	1.10.21	安全運転管理者等法定講習	栃木県公安委員会		足利愛光園
					フルーエ
28	1.10.24	社会福祉施設長研修会	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 福祉人材研修センター		彩光園
29	1.10.30	社会福祉施設指導監督職員研修会	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		彩光園
					彩光園
30	1.11.8	令和元年度栃木県社会就労センター協議会研修会	栃木県社会就労センター協議会		愛光園
					彩光園
					陽光園

31	1.11.12	福祉サービス苦情解決研修会	栃木県運営適正化委員会		共働舎
32	1.11.12～13	栃木県サービス管理責任者児童発達支援管理責任者基礎研修②	NPO 法人栃木県障害施設・事業協会		彩光園
33	1.11.14	安全運転管理者等法定講習	栃木県公安委員会		陽光園
34	1.11.22	栃木県サービス管理責任者児童発達支援管理責任者更新研修	NPO 法人栃木県障害施設・事業協会		ホームほのか
					愛光園ホームあすか
35	1.11.15/22	令和元年度栃木県障害者虐待防止・権利擁護研修	一般社団法人栃木県社会福祉士会		フルーエ
					ラクーン
					愛光園
36	1.11.28	令和元年度リサイクル部会研修会	NPO 法人日本セルプセンター		三桝屋總本店
37	1.11.30/12.1	相談援助実習　実習指導者講習会	一般社団法人栃木県社会福祉士会		彩光園
38	1.12.11～12	令和元年度施設長実学講座	社会福祉法人全国社会福祉協議会 日本福祉施設士会		足利愛光園
39	1.12.9～13	令和元年度主任相談支援専門員養成研修	厚生労働省		足利市基幹相談支援センター
40	1.12.14～15	就労支援フォーラム NIPPON2019	公益財団法人日本財団		共働舎
					足利愛光園
					愛光園
41	2.1.14～15	フォローアップ研修	日本セルプ士会		陽光園
42	1.12.17	RBC タイムマネジメント研修	株式会社エルシーアール		彩光園
43	1.12.17～18	栃木県サービス管理責任者児童発達支援管理責任者更新研修	NPO 法人栃木県障害施設・事業協会		陽光園
44	2.1.17/24	令和元年度栃木県障害者虐待防止・権利擁護研修	一般社団法人栃木県社会福祉士会		三桝屋總本店
					愛光園ホームあすか
					ホームほのか
45	2.1.22	経済講演会　2020 日本経済の展望	経済団体新春講演会実行委員会		愛光園
46	2.1.30	令和元年度栃木県障害施設・事業協会　施設長研修会	NPO 法人栃木県障害施設・事業協会		愛光園
47	2.2.9	福祉レクリエーションセミナー	足利市レクリエーション協会		フルーエ
48	2.2.21	メンタルヘルス対策及び働き方改革関連法研修会	栃木労働局		共働舎

事業所別職員数（令和２年３月31日）

			男			女			合計			平均年齢	平均在籍期間
			常勤	非常勤	合計	常勤	非常勤	合計	常勤	非常勤	合計		
山川	足利愛光園	生活介護	1	2	3	2	1	3	3	3	6	50.8	6.49
		B	5	1	6	3	3	6	8	4	12	47.5	5.26
	あすか		1	0	1	5	4	9	6	4	10	57.2	11.51
	その他		0	0	0	2	0	2	2	0	2	49.5	2.67
	小計		7	3	10	12	8	20	19	11	30		
あづま	彩光園	生活介護	3	4	7	3	1	4	6	5	11	50.3	5.05
		彩	2	0	2	1	5	6	3	5	8	50.4	7.85
		B	3	3	6	0	3	3	3	6	9	52.8	3.51
	かがやき		1	4	5	6	3	9	7	7	14	61.1	7.27
	ないろ		0	2	2	3	8	11	3	10	13	54.7	2.73
	その他		1	0	1	0	0	0	1	0	1	64.0	2.67
	小計		10	13	23	13	20	33	23	33	56		
六郷	セレッソ館		2	1	3	4	5	9	6	6	12	60.7	7.66
	ラクーン		3	4	7	3	7	10	6	11	17	47.3	5.41
	三桝屋		5	3	8	1	6	7	6	9	15	47.3	6.13
	小計		10	8	18	8	18	26	18	26	44		
アイタウン	ほのか		1	1	2	4	5	9	5	6	11	58.5	4.41
	ひだまり		2	1	3	3	11	14	5	12	17	60.7	4.77
小計			3	2	5	7	16	23	10	18	28		
稲岡	工場	愛光園	5	0	5	3	6	9	8	6	14	50.8	10.24
		共働舎	2	2	4	5	6	11	7	8	15	52.5	6.95
		その他	1	0	1	0	0	0	1	0	1	49.0	2.67
		小計	8	2	10	8	12	20	16	14	30		
	介護	陽光園 生活介護	13	5	18	8	6	14	21	11	32	43.8	5.55
		陽光園 入所	0	1	1	2	0	2	2	1	3	57.0	7.75
		サンリット	1	0	1	1	1	2	2	1	3	45.3	6.50
			14	6	20	11	7	18	25	13	38		
大久保		一歩	0	1	1	4	3	7	4	4	8	51.3	6.25
小計			0	1	1	4	3	7	4	4	8		
猿田		フルーエ	3	3	6	6	2	8	9	5	14	47.9	4.39
		共生	1	0	1	1	0	1	2	0	2	41.5	12.38
小計			4	3	7	7	2	9	11	5	16		
地域		相談支援	2	0	2	0	0	0	2	0	2	38.5	14.13
小計			2	0	2	0	0	0	2	0	2		
合計			58	38	96	70	86	156	128	124	252	51.6	6.41

令和元年度補助事業の活用状況

補助団体	事業所（施設）	事業名または内容	事業予算・補助額	完了日
日本財団	山川事業所 足利愛光園	2019 年度助成事業 クリーニング資材運搬用 トラック購入 トヨタ：トヨエース	総額： 5,832,000 補助： 4,665,000	R1 年 10 月
JKA	稲岡事業所 陽光園 大久保事業所 一歩	競輪公益資金による補助 福祉車両の整備(緊急支援) トヨタ：ハイエース　2 台 トヨタ：ヴォクシー　2 台	総額： 13,561,060 補助： 7,050,000	R2 年 3 月
日本財団	稲岡事業所 陽光園 共働舎 大久保事業所 一歩	令和元年台風第 19 号により 被災した車両の代替配備 日産：キャラバン　3 台 日産：セレナ　　2 台 スズキ：エブリー　1 台	総額： 16,278,060 補助： 15,200,000	キャラバン セレナ R2 年 3 月 エブリィ R2 年 6 月予定
社会福祉法人 栃木県共同募金会	猿田事業所 フルーエ	共同募金分配金 送迎車両の導入 トヨタハイエース	（予定） 総額： 4,023,750 補助： 1,000,000	（予定） R2 年 6 月
国庫補助	稲岡事業所 陽光園 愛光園ホーム 愛光園・共働舎	社会福祉施設等災害復旧費 国庫補助（建物） 建築改修費 エレベーター工事 非常用発電機取替工事 変電設備工事　等	総額： 71,721,320 補助： 59,766,000	（予定） R2 年度中
国庫補助	稲岡事業所 陽光園 愛光園・共働舎 大久保事業所 一歩	社会福祉施設等設備災害復旧補助（備品） 車両 厨房設備 工場用ポンプ　等	総額： 24,691,955 補助： 21,083,000	（予定） R2 年度中